

ようこそ大多喜城へ

千葉県立中央博物館大多喜城分館は、千葉県指定史跡の上総大多喜城本丸跡に1975(昭和50)年に建てられた天守閣づくり(3層4階の鉄筋コンクリート造)の歴史博物館です。

当博物館は、房総の中世・近世の城郭とそれに関わる武器・武具や調度品・古文書及び武家社会や城下町の生活などに関する資料を展示しています。



紙本着色本多忠勝像
(良玄寺蔵)

大多喜城の歴史

中世の大多喜は、史料の中に小田喜と見られますので、大多喜城もその頃は小田喜の城と呼ばれていたようです。

16世紀の前半代に武田氏が入城したとも言われていますが、天文期(1532~1555)に安房の里見氏の重臣であった正木氏が入り、以後4代にわたり、上総正木宗家の居城として発展します。

その後、1590(天正18)年に北条氏が豊田秀吉によって滅ぼされると、徳川家康が江戸城に入り、小田喜城を家臣の本多忠勝に与えて安房の里見氏の勢力をおさえようとした。

城主は本多氏のあと、阿部・青山・稲垣氏へと引き継がれ、1703(元禄16)年に松平氏が入城します。以後、松平氏は9代続き明治の廃藩置県を迎えました。

見る聴く触れる歴史を体感!

講座

「城下を歩く」「古文書を読む」など地域の文化を学びます。

体験教室

甲冑・小袖・袴の試着をとおして武士の時代を体感します。



「房総の城と城下町」がテーマです

4階 展示室

大多喜城と城下町の模型を展示し、あわせて周辺の文化財を写真パネルで紹介しています。また、窓から城下町の様子を見ることができます。

3階 展示室

城下町の人々のくらしぶりを示す商工業用具や調度品、信仰資料や古文書などを展示しています。

茶系威亀甲冑具足(大多喜町蔵)



2階 展示室

房総の城と武士をテーマに城郭や武士に関する資料を展示しています。また、企画展開催の会場にもなります。

1階 受付・展示室・ミュージアムショップ

ホールでは「千葉県の城」と「房総の大名」をパネルで紹介しています。「体験コーナー」では、兜と陣羽織をつけて写真撮影ができます。



大多喜城地絵図